

図書館セミナー第6回を開催しました。

医学図書館では、平成24年7月9日（月）17：00-18：30、323講義室で中根裕信先生（医学科形態医学分野）を講師に、図書館セミナー第6回「「人体」のエピソードについてーダ・ヴィンチをめぐる2つのお話ー」をしていただきました。

ダ・ヴィンチら芸術家は、人体の表現をより正確に行うため医学と深い関わりを持ち、一方、医学の解剖図(アトラス)も、実物を正確に表現する方法を取り入れ発展してきました。ターヘル・アナトミアの翻訳が、その正確な解剖図と腑分けによる実物との比較から始まったことから、解剖図の表現力の重要性が理解できます。今日の医療において、患者さんへの説明と同意(インフォームド・コンセント)の点からも、理解した専門的な内容を分かりやすく説明する表現力が医療従事者に求められていると話されました。美術・音楽・話術等に関わる図書館資料の鑑賞も、学生さんの伝える力(表現力)を磨くための参考になると思われました。

もう一つのダ・ヴィンチ、鳥取大学低侵襲外科センターにあるda Vinci S について、「ロボット手術マニュアル」(同センター編)等の図書・動画の資料を紹介されました。ロボット手術は手術支援をするロボットを用いた手術であり、豊富な外科手術の経験を持ち予めトレーニングを受けた外科医が操作し、ロボットの動作は外科医の判断の結果であると説明されました。この手術は、患者さんの身体に負担の少ない手術で早期回復が期待でき、また例として前立腺癌の手術で起こる合併症(尿失禁など)のリスクを少なくできるとのことでした。ロボット手術がどのようなものか、おおよそ理解できました。

参加された方からは「授業で解剖を行う機会が増えてきて、授業とリンクしている内容だったので、興味を持って今回の講義を受講できました。」「医学の発展した理由を人体解剖図の絵から聞けてとても興味をもてた。」「これまで単に見ていた解剖のアトラスの見方が変わりました。」などの感想を寄せていただきました。

「人体」に興味を持てば、専門科目の学習にも役立ちます。今後もこのような図書館セミナーを開催いたしますのでどうぞご参加ください。

なお、セミナー内で紹介して頂いたWebサイトは下記のとおりですのでどうぞご覧ください。

○ Royal Collection (図上をクリックすると右側に拡大図が表示されます)

(エリザベス女王即位 60 周年を祝し、ダ・ヴィンチの解剖図が Web 上で公開)

<http://www.royalcollection.org.uk/exhibitions/leonardo-da-vinci-anatomist>

○ da Vinci S の開発元の会社の Web サイト (右側の動画を見るとイメージがつかめます)

<http://www.davincisurgery.com/davinci-surgery/>



セミナー風景